

コイノニア



今年もコロナ禍の夏休みでしたね。多くの制限の中で、なかなか自由に過ごすことのできない不便さを感じていた人もいるでしょう。自分は大丈夫だろうか？と不安を覚えながら過ごした人もいると思います。私も早く学校が始まって、みなさんのお顔を見ながらお話ししたいなと思っていました。やはり、学校という場所は生徒のみなさんがいてはじめて豊かな場所になるのだと実感しました。2学期のスタートを心から感謝しています。

「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、
一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」

コリントの信徒への手紙一 12:26

この聖句は、私たちの体をたとえにして教会(社会・共同体)のことを説明している箇所です。私たちの体には多くの部分(器官)があって、それぞれが別々の働きを担うことで成り立っています。目には目の働き、耳には耳の働き、手には手、足には足の働きがあるということです。

このことを私たちの学校に当てはめて考えると、それぞれ全く違う存在である1人1人が全員必要とされていて、その1人1人が松山学院高等学校になくてはならない存在であると理解することができます。そして誰も苦しめられることなく、だれも悲しむことなく、安心して堂々と生きることができる平和な居場所を作り上げるために、神さまは私たち1人1人にその役割をお与えになったのです。私たちはそのような世界を作るために、神さまの共働者となるのです。

2学期は行事の多い学期です。クラスや学科・学年を超えて一緒に活動する機会も増えるでしょう。初めて関わる人と一緒に作業することもあるかもしれません。どうかそのような中でも互いの存在を肯定しながら、共に喜べる場所を作り上げてほしいと願っています。他者を思う気持ちがみんなの居場所を作り上げるのです。

聖書・キリスト教の漢字～これなんて読むの？～ #05 「隣人」

「隣人(りんじん)」という言葉は一般的にも使われていますが、キリスト教には「隣人を自分のように愛しなさい。」という教えがあります。イエス・キリストは、当時の社会の中で無視され、差別されていた人の「隣人」となり、また、困っている人や助けを必要としている人の「隣人」となり、社会で生きる全ての人の存在を肯定し、受け入れ、愛した人でした。

私たちの学校でも、このようなイエスの生き方に倣い、被災者支援や地域での奉仕活動をはじめとする様々な支援活動を行っています。

9月の予定 月間聖句

「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、
一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」
(コリントの信徒への手紙一 12:26)

月間テーマ 「神さまと私たちは共働者」

松山学院ものがたり #05 創立者コーネリア・ジャジソン宣教師<2>

～夜学校に懸ける思い～

1890年7月30日。新潟で自信を失っていたジャジソン宣教師は松山へ転出できる知らせを受けました。新潟女学校での仕事を片付け、後任の宣教師が来るのを待って、11月初旬に松山に向かって出発しました。途中に立ち寄った神戸での出会いと経験が、松山で夜学校を作る働きに大きく影響しています。



「途中、アメリカン・ボードの関西ステーションであった神戸に立ち寄った。

このときジャジソンは多聞教会の長田時行牧師が経営していた新田夜学会を訪ね、貧しい数十名の子どもたちが、一生けんめいに勉強【当時のジャジソン宣教師】している様子に強く心を動かされた。宣教師としての使命は単に英語を教えることにとどまらず、このように貧しい子どもたちの教育こそが大切であると考えさせられた。」(『創立100周年記念誌』より抜粋)

松山に到着したのは11月21日。29歳のときです。これから松山教会で西村清雄と出会い、本校の創立へとつながります。

☆今月の「喜ぶ人と共に」大賞☆

コンポストでSDGs

学校菜園～カルディア～に、コンポストを設置しました！手伝ってくれたのはスポーツコースの1年生と調理科2年生。調理科の実習や検定で出た生ゴミをコンポストにためて堆肥にします。それを畑に使うって野菜を育てます。ゴミを減らし、無農薬の安全な野菜作りでSDGsに取り組みます！

